

曲直瀬道三の構想した脈学 第2報
神奈川 吉岡広記 2014/11/15 第22回日本鍼灸史学会学術大会配付資料

田代三喜に医を学び終え天文十四年(1545)に帰京して以降の後期道三の脈学展開をうかがえる著作一覧(附. 前期の著作)

切28『切紙』廿八・宗爽胃氣三按半月湖所秘也(天文七年[1538]重陽[九月九日]。道三33歳)

Table with 2 columns: 番号, 内容. 28-01 胃氣之口訣 胃氣は氣口(寸口)で診ること、また胃氣の有無は朝食の前後の強さを比較して判断すべきことを示す。 28-02 宗爽胃絶之説 四時の脈状(弦洪浮沈)+絶(按じて)=胃絶とする。 \*宗爽: 寇宗爽『本草衍義』(1116年)。

切03『切紙』三(天文十一年[1542]上元日。道三37歳)

Table with 2 columns: 番号, 内容. 03 脈対分別之捷徑 七表八裏九道脈に準ずるも、二十四脈を対にし、脈證と脈状を示す。口-26『診脈口伝集』対脈ノ二十六状とは異なる。典拠未詳

道三『全九集』(天文十三年[1544]、7巻。道三39歳。月湖『全九集』を改編増補し和文体にしたもの。脈論は巻一に置かれる)

以下、後期道三の著作

切35『切紙』廿五・両規通準(永禄九年[1566]八月朔)

Table with 2 columns: 番号, 内容. 35-01 治勞升降 雜著 食傷・勞倦=陽虚=煩熱・脈大而無力=補肺脾、勞心・恣欲=陰虚=煩熱・脈数而無力=補心腎。 枢-40、要-09、口-20

枢『診切枢要』(永禄九年[1566]八月中旬。序: 枢-01~04、本論: 枢-05~)

Table with 3 columns: 番号, 脈名, 内容. 01 陽男陰女 丹溪下 『丹溪脈訣』論脈法配天地。 02 男女異同 刊誤上 『脈訣刊誤』卷上・診候入式歌。男=寸>尺・左>右、女=寸<尺・左<右。切-32、口-01、口-11、簡-11 03 脈息神氣 丹溪下 『丹溪脈訣』学診例。脈は神、息は氣。脈は氣によってめぐる。 04 我彼智神 丹溪下 03を承け、それ故に遲数が重要であることを説く。 05 尋按切解 刊誤上 按=肌肉筋骨まで重く按ずる、尋=脈にしたがって上下左右を診る。 06 総論脈式 丹溪下 07 男女診法 丹溪下 『丹溪脈訣』弁男女左右手脈法図序。男=左より診る=陽氣多=左脈盛、女=右より診る=陰氣多=右脈盛。 枢-20、切-32、口-01、口-11、簡-11 08 氣口人迎 丹溪下 『丹溪脈訣』弁七情鬱發五藏變病脈法、弁六淫外傷六經受病脈図説、総論脈式、論分按人迎氣口左右図説。 人迎氣口診初見。 09 無正不正定名 丹溪上 『脈訣刊誤』卷上・九道。 10 七候弁別 刊誤上 05を承けた三部ごとの細かな診脈手順。①浮按、②中按、③重按、④上寬、⑤下寬、⑥推指外、⑦推指内。切-41 11 陰陽微弁 刊誤上 ①陽微=不能呼、陰微=不能吸。要-16。②陽微=吐血、陰微=下利。要-18。③陽微=自汗、陰微=自下。 枢-43、切-37-02、要-15、口-22。④陽弦=頭痛、陰弦腹痛(潔古は陽を浮、陰を沈とする)。要-17。 12 以表裏不定脈名 丹溪上 13 榮衛行達 刊誤上 14 獨現通現 丹溪上 七表八裏脈(弱)は三部各々に診、九道脈(虚)は三部全体で診る。要-14、口-21 15 神門所在 丹溪下 指-09 16 五藏浮沈遲數応病詩 丹溪下 虚実無し、左右寸関尺診。 17 仰覆診弁 刊誤上 18 六淫診弁 刊誤上 19 七情見証 丹溪下 20 弁男女左右手脈法 丹溪下 『丹溪脈訣』弁男女左右手脈法図序。 枢-07、切-32、口-01、口-11、簡-11 21 覆溢乘証 丹溪下 陰乘陽=惡寒、陽乘陰=發熱。口-13 22 診切博約 丹溪下 四脈+虚実[有力無力]と人迎氣口診初出。口-12 23 經藏内外 丹溪下 24 先情後淫 丹溪下 古人が先ず氣を調え後に淫邪をはいらせないようにしたことから、七情と六淫も同様に先後をつける。 25 藏病伝次 丹溪下 26 陰陽癱瘓 脈經 陽邪來見浮洪、陰邪來見微細、水穀邪來見実堅、寒癱邪來見弦小。指-07(⑤) 27 氣血不足 正伝 血不足=瀯小、氣不足=大弱。老-111とは異なる。指-08、要-06 28 形氣反見 外科精義 形壯にして脈細=少氣、形瘦にして脈大=胸中多氣。いずれも逆證。指-07(①)、要-20、口-23 29 色脈順逆 難知 脈=地(=陰)、色=天(=陽)。脈と色の先後関係を「地生地則順、瘥速也。天生地則逆、愈遲也」とするが、詳細不明。指-06 30 反脈四難 精義 病熱脈静、泄而脈大、脱血脈実、汗後脈躁は難治。これを四難と言う。指-07(④)、要-07、口-16 31 食弦痰滑 玉機腹痛 脈弦は食、滑は痰。指-05、要-21 32 滑瀯潤燥 心法痛風 肢節腫痛して滑脈は湿、瀯脈は瘀血。指-04、要-05、口-19 33 弦筋沈骨 正伝 沈主骨腎、弦主筋肝。指-03(①)、要-03 34 左右血氣 小学・心法 ①左脈虚小=驚悸=血虚、右脈虚小=耳聾=氣虚。②氣虚=右脈無力、血虚=左脈無力。指-01、要-02、老-37 35 虚脈弁記 医家大法 津脱=大汗、液脱=骨不利、氣脱=目昧、血脱=色天、精脱=耳聾。これらはいずれも脈は虚である。指-12 36 陰陽数弁 難知 浮沈長短滑瀯=形の陰陽、寸関尺=部位の陰陽、左右=血氣の陰陽。指-13(②)、要-01、口-25 37 一元兩根 正伝或問 左=陰=水=血、右=陽=火=氣。左右の陰陽に疑義あり(切-10-01も同じ)。指-10 38 浮沈癩弁 玉機 39 瘡初脈弁 玉機 40 虚煩升降 雜著 食傷・勞倦=陽虚=煩熱・脈大而無力=補肺脾、勞心・恣欲=陰虚=煩熱・脈数而無力=補心腎。切-35-01、要-09、口-20 41 師察主説 宝鑑 熱勝=疾、寒勝=遲、実=有力、虚=無力。要-10 42 左部尅右 脈經 左右寸関尺の藏府配当における相剋関係を端的に述べる。『脈經』卷一・両手六脈所主五藏六府陰陽逆順第七。切-37-01、要-11、老-36、口-24 43 微脈汗下 丹溪脈 陽微=自汗、陰微=自下。 枢-11(③)、要-15、切-37-02、口-22 44 婦脈弁胎 正伝 ①『脈經』より引用: 心脈動甚(心主血脈)、腎脈不絶(腎為胞門子戸)。左手沈実は男、右手浮大は女、左尺偏大は男、右尺偏大は女。②『察病指南』より引用: 左尺浮洪は男、右尺沈実は女。要-28 45 崇脈 丹溪下 46 六極脈 丹溪下 雀啄、屋漏、彈石、解索、魚翔、蝦游の六脈。死脈。 47 対体名状 丹溪下 『丹溪脈訣』弁脈体名状。『察病指南』『王叔和脈訣』系の七表八裏九道脈を脈状の陰陽によって組み替えた『三因方』系の対脈状初出。切-04、口-26 48 七表病証 丹溪下 49 八裏病証 丹溪下 50 九動病証 丹溪下 51 関弁前後 丹溪下 52 諸當頼胃 丹溪下 53 胆無出入 刊誤上 54 虎口弁歌 惠濟 要-29 55 医宜尽善 丹溪下

切37『切紙』三十七・救矩明監(永禄十年[1567]黄鐘十九)

Table with 2 columns: 番号, 内容. 37-01 左部尅右 脈經 左右寸関尺の藏府配当における相剋関係を端的に述べる。『脈經』卷一・両手六脈所主五藏六府陰陽逆順第七。 枢-42、要-11、老-36、口-24 37-02 微脈汗下 丹溪脈訣 枢-43、要-19、口-22 37-03 惡候例法 医学指南 諸證の脈状による吉凶(予後)を述べる。『医学指南篇』に未見。

指『医学指南篇』診切指南篇三(元龜二年[1571])

Table with 3 columns: 番号, 脈名, 内容. 01 左右氣血弁例 小学・心法・反胃 ①左脈虚小=驚悸=血虚、右脈虚小=耳聾=氣虚。②氣虚=右脈無力、血虚=左脈無力。 枢-34、要-02、老-37 02 浮沈氣血弁例 湯液本草 年高く虚したる人の燥秘は、脈浮であれば氣、沈であれば血に病がある。 03 沈弦筋骨弁例 正伝・痛風 ①沈主骨腎、弦主筋肝。 枢-33、要-03、口-17。②痛属火、腫属湿(附腫痛湿火之弁例)。要-04 04 滑瀯燥潤弁例 心法・痛風 肢節腫痛して滑脈は湿、瀯脈は瘀血。 枢-32、要-04、口-18 05 弦滑弁因 玉機・腹痛門 脈弦[原作「強」、拠『診切枢要』『医家要語集』改]は食、滑は痰。 枢-31、要-21 06 色脈相生順逆弁例 此事難知 脈=地(=陰)、色=天(=陽)。脈と色の先後関係を「地生地則順、瘥速也。天生地則逆、愈遲也」とするが、詳細不明。 枢-29 07 形氣色脈弁察 外科精義 ①形壯にして脈細=少氣、形瘦にして脈大=胸中多氣。いずれも逆證。 枢-28、要-20、口-23。②形氣相得者生、三伍不調者病。③形氣相失、色天不沢、脈逆四時、脈実益堅は不可治、その逆は可治(『素問』玉機真藏論篇に拠る)。④病熱脈静、泄而脈大、脱血脈実、汗後脈躁は難治。これを四難と言う(『素問』玉機真藏論篇に拠る。ただし、『素問』では③が四難とされている)。 枢-30、切-01-56、口-16。⑤陽邪來見浮洪、陰邪來見微細、水穀邪來見実堅、寒癱邪來見弦小。 枢-26。 08 臍噎氣血不足診察 正伝 血不足=瀯小、氣不足=大弱。老-111とは異なる。 枢-27、要-06 09 人迎氣口神門之所在 正伝或問 診脈部位の説明。按語に「今人多不識此人迎氣口」と言う。また、人迎氣口は関前寸後であつて、寸または関ではないことを確認する。 枢-15 10 一腎兩根解説 正伝或問 左=陰=水=血、右=陽=火=氣。左右の陰陽に疑義あり(切-10-01も同じ)。 枢-37 11 四脈為祖 医林正宗 09で人迎氣口を示すも非人迎氣口診。四脈+虚実[有力無力]。要-08 12 五脱診察 医家大法 津脱=大汗、液脱=骨不利、氣脱=目昧、血脱=色天、精脱=耳聾。これらはいずれも脈は虚である。 枢-35 13 面上五行 心法 ①左類=肝胆、額=心小腸、鼻=脾、右類=肺、頤=腎。これらが左右寸関尺に対応する。②浮沈長短滑瀯=形の陰陽、寸関尺=部位の陰陽、左右=血氣の陰陽(難知)。 枢-36、要-01、口-25。

切01『切紙』一・五十七箇条 (元龜二年〔1571〕九月十三日)

01-02	察脈證而可定病名事	
01-17	男婦有尺寸之別診氣血之異治	
01-19	治腎虛則診兩尺而可弁水火別補也	切-24-09に通じるか。
01-20	診女脈則必先可決胎娠有無矣	
01-31	諸病不治之證不順之脈	切-01-56に通ず。
01-56	病脈相反聖規	病熱・脈靜、病泄・脈大、病脱血・脈実、汗後・脈躁は、難治。いわゆる四難。枢-30、指-07 (④)、要-07、口-16

切04『切紙』四 (元龜二年〔1571〕九月十四日)

04	弁脈体名状『丹溪脈訣』弁脈体名状『三因方』卷一・脈偶名状。	枢-47、口-26
----	-------------------------------	-----------

切10『切紙』十・四證四治劑多寡 (元龜二年〔1571〕季秋中澣)

10-01	四證四治之秘授	四證=氣・血・痰・鬱。氣=陽=表=浮=右沈弱為虚・浮実為実、血=陰=裏=沈=左沈滑為実・細浮濡為虚。指-01と同じく、左右と陰陽氣血の關係に疑義あり。
-------	---------	---

切11『切紙』十一・五矩 (元龜二年〔1571〕九月吉日)

11-03	内外傷之弁察	まず手ならびに全身の寒熱により内外傷を分け(手背・全身=外、手心・脇=内)、次ぎに脈により診る。多くは脈(脈状)により、少しく證(證状)によるとする規定といささか矛盾する。老-85+老-28
-------	--------	---

切21『切紙』二十一・察胎 (元龜二年〔1571〕九月吉日)

21-01	論成娠之原	「王叔」「脈経」「指南」
21-02	弁男女	「脈経」「正伝」「指南」
21-03	外候胎法	

切22『切紙』二十二・建中 (元龜二年〔1571〕九月吉日)

22-02	察脈而調脾胃之説	右関=脾胃=緩和。弦=風傷、洪=熱傷、瀦=燥熱、沈細=寒熱、実=食傷、滑=温痰。
-------	----------	--

切24『切紙』廿四・老師口訣 (元龜二年〔1571〕九月下澣)

24-04	氣血兩虚之異候	血実=滑実、血虚=瀦弱、氣実=洪弦、氣虚=微濡。左右分けず。おそらく左=血、右=氣(切-10-01、簡-14)。
24-06	治渴分上中下	寸関尺=上中下。有力の部に渴有りとする。
24-07	久病備五虚五実之證難治	老-22
24-09	兩補之異	左尺実弦=腎水枯竭、精源涸乾。右尺濡弱微細=相火衰微、陽氣脱退。指-10、切-01-19に通じるか。簡-08中の兩尺ノ別と類文。

切26『切紙』廿六・摩訶覚 (元龜二年〔1571〕九月下澣)

26-01	虚実弁理	虚実の定義。
26-02	太過不及至弁	太過(実)+数疾=外邪(挙按〔浮沈〕してより強い方を邪の所在とする)、不及(虚)+遲緩=虚(挙按してより弱い方を虚とする)とする。ただし、太過+遲緩、不及+数疾は設定されない。
26-03	浮沈弁治	太過不及(虚実)と浮沈の組み合わせにより表裏補瀦の弁別を説く。
26-04	識語	七表八裏九道の煩を察せずとも、脈の虚実(太過不及)・遲数(数疾・遲緩)・浮沈を診ることで虚実寒熱を辨別し、表裏補瀦を過つことはないと言説。非人迎氣口診(崔紫虚・劉開系統)。

切29『切紙』廿九 (元龜二年〔1571〕九月廿二)

29	男婦胃氣弁診	久病における男女の胃氣の有無の弁別を論ず。男は氣を主とする故に人迎<氣口を順、女は血を主とする故に人迎>氣口を順。胃氣を陽を考えているようであるが、逆ではないか。『切紙』三十では「衛氣」と同じと見ているようである。『格致余論』に拠る。
----	--------	---

切30『切紙』三十 (元龜二年〔1571〕九月下澣)

30	深察胃絶	久病には陽虚(陽氣損耗、脈沈〔沈細〕)と陰虚(陰氣脱絶、脈浮〔微弱])の別があり、陽虚は指を浮かべて絶、陰虚は沈めて絶であれば胃氣が絶し、それぞれ微であれば胃氣が有ると診る。冒頭に『脈経』の「寸口脈が微であれば衛氣が不足し、瀦であれば榮氣が不足する」という一節を引くが、不要か。衛氣=胃氣と見ているか。
----	------	---

切31『切紙』卅一 (元龜二年〔1571〕九月下澣)

31	悪脈ノ再察 彦脩所伝	丹溪心法拾遺 悪脈(未詳)を診た場合は、通常の指で診る方法ではなく、手(おそらく掌全体)で覆い診る必要があり、かつ通常の方法で診たものと強さが同じであれば元氣が絶えており予後不良、異なれば予後は良いとする。要-27
----	---------------	--

切32『切紙』卅二 (元龜二年〔1571〕菊月念三)

32	察男女之命脈生死診訣 丹溪秘伝	男女の脈の常態、診察する手の順序などを論ず。男子の命脈は右尺、左尺は精府、女子の命脈は左尺、右尺は血海。男は陽であるが故に左手から診、脈の左右差は左>右である。女は陰であるが故に右手から診、脈の左右差は左<右である。『丹溪脈訣』に拠る。枢-07、枢-20、口-01、口-11、簡-11
----	--------------------	--

切33『切紙』卅三 (元龜二年〔1571〕九月廿三日)

33	脈神諸弁之粹万察之長	格致 脈中の神(血氣)の有無を有力無力により診る。
----	------------	---------------------------

切34『切紙』卅四・外感内傷生死明解 (元龜二年〔1571〕九月下澣)

34-01	診候外感内傷生死明解	大=病進、緩=邪退(『惠濟方』傷寒)。*王永輔『簡効惠濟方』(1530頃成立)
34-02	十書脈神	有力=脈神。道三は、これらをもとに外感は緩和往来、内傷は指下有力であれば神(脈神)有りとしている。もともと永禄六年(1563)十二月二日に記したものであるが、百発百中の至術と自画自賛するほど有用であるため、後に切紙とした。

要『医家要語集』察脈要語 (元龜三年〔1572])

01	陰陽區別	十書	浮沈長短滑瀦=形の陰陽、寸関尺=部位の陰陽、左右=血氣の陰陽。指-13 (②)
02	左右血氣	小学	左脈虚小=驚悸=血虚、右脈虚小=耳聾=氣虚。枢-34、指-01、老-37
03	沈骨弦筋	正伝	沈主骨腎、弦主筋肝。指-03 (①)、枢-33、口-17
04	火痛湿腫	正伝	指-03 (②)、口-18
05	滑瀦瀦癆	正伝	枢-32、指-04、口-19
06	瀦小大弱	正伝	枢-27、指-08
07	病脈相反		四難。切-01-56、枢-30、口-16
08	四脈力弁	正宗	四脈+虚実〔有力無力〕、非人迎氣口診。指-11
09	虚煩陰陽	雜著	食傷・勞倦=陽虚=煩熱・脈大而無力=補肺脾、勞心・恣欲=陰虚=煩熱・脈数而無力=補心腎。切-35-01、枢-40、口-20
10	医察主説	宝鑑	熱勝=疾〔原作「癆」、拠『診切枢要』改〕、寒勝=遲、実=有力、虚=無力。枢-41
11	左部剋右		左右寸関尺の蔵府配当における相剋關係を端的に述べる。『脈経』卷一・両手六脈所主五蔵六府陰陽逆順第七。枢-42、切-37、老-36、口-24
12	勞脈劇瘥	秘蔵	勞脈=浮大、大、極虚。手足煩熱あり。春夏に病めば劇し、秋冬は差ゆ。
13	虚里脈弁	脈経	
14	虚弱等別	脈経	七表八裏脈は三部各々に診、九道脈は三部全体で診る。枢-14、口-21
15	微脈汗下	丹溪	陽微=自汗、陰微=自下。枢-11 (③)、枢-43、切-37-02、口-22
16	微脈呼吸	丹溪	①陽微=不能呼、陰微=不能吸。枢-11 (①)
17	陰陽弦痛	丹溪	陽弦=頭痛、陰弦腹痛(潔古は陽を浮、陰を沈とする)。枢-11 (④)
18	吐血下利	丹溪	陽微〔原作「数」、拠『診切枢要』改〕=吐血、陰微=下利。枢-11 (②)
19	麻痺痺木	伝	浮緩=湿=麻痺、緊浮=寒=痛痺、瀦芤=死血=為〔疑「麻」之誤〕木。
20	形脈氣応	外科精義	形壯にして脈細=少氣、形瘦にして脈大=胸中多氣。いずれも逆證。枢-28、指-07、口-23
21	腹痛弦滑	丹溪	脈弦は食、滑は痰。枢-31、要-21
22	自盜汗脈	伝	寸脈大而虚=自汗、尺脈浮而軟=盜汗。
23	芤瀦血弁	伝	芤=失血、瀦=少血。
24	金瘡脈治	玉機	金瘡出血は沈小が生き、浮大が死す。
25	平治脈例	内経	平治權衡=察其浮沈。
26	冷熱氣弁	正伝	身熱無汗=氣有余(瀦脈の場合は、血少なく陰虚である)、身冷自汗=氣不及。
27	悪脈再察	丹溪	切-31
28	婦人胎弁	伝	枢-44
29	虎口歌括	惠濟	枢-54

切02『切紙』二 (元龜四年〔1573〕上元日)

02	診候葉註一紙之約術	『察病指南』を典拠とした七表八裏九道の脈證に対する葉の配置。典拠未詳。やや古い。
----	-----------	--

切38『切紙』三十八 (元龜四年〔1573〕二月初八)

38	察生氣有無	『医学正伝』或問第十七条(『難経』八難)、『素問』三部九候論。
----	-------	---------------------------------

老『老師雜話記』(天正五年〔1577〕。老師=田代三喜のことか。師の脈論。全124論中、20論)

02	四知捷徑	浮沈遲数=病ノ端、人迎氣口=内外、左右虚実=氣血、七表八裏九道。
----	------	----------------------------------



